

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	研究 0-1
1. 海洋科学部・海洋工学部・海洋科学技術研究科	研究 1-1

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況	研究成果の状況	質の向上度
海洋科学部・海洋工学部・海洋科学技術研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している

海洋科学部・海洋工学部・海洋科学技術研究科

I 研究の水準 研究 1-2

II 質の向上度 研究 1-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における平均の審査付き論文数は518.0件となっている。また、著書は約72.2件、国内研究発表件数は約616.7件、国外研究発表件数は約273.8件となっている。
- 第2期中期目標期間における科学研究費助成事業の採択状況は平均約100.2件（約3億400万円）で、教員一人当たり約0.4件（約120万円）となっている。その他の競争的資金は平均30.0件（約5億2,700万円）で、教員一人当たり約0.1件（約220万円）となっている。共同研究は平均約135.2件（約1億6,900万円）、受託研究は平均50.0件（約3億1,000万円）となっている。
- 水産学と工学の連携推進や大型外部資金の受入を目的としたトップダウン型の学内プロジェクト研究である「重点的に取り組むべきプロジェクト型研究」と、中期的視点で戦略的に成長を促すためのボトムアップ型の「学内重点研究」により、学際的・先端的な研究分野の創出を図っている。また、岩手大学、北里大学との連携による「SANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業」、「水産海洋イノベーションコンソーシアム構築事業」等、外部資金を活用した共同研究等を実施している。

以上の状況等及び海洋科学部・海洋工学部・海洋科学技術研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、第2期中期目標期間における受賞件数は平均約26.2件となっており、特に水圏生命科学の細目において卓越した成果をあげている。
- 卓越した研究業績として、水圏生命科学の「水圏環境測定用バイオセンサの開発に関する研究」、「魚類の遺伝的・環境的性決定機構のメカニズムに関する研究」、「魚類の卵のもとになる幹細胞は高い性的可塑性を有する」があ

る。「魚類の遺伝的・環境的性決定機構のメカニズムに関する研究」は、脊椎動物の性決定機構に関する新知見をもたらしたことにより、国際学会での招待講演等につながっている。

- 社会、経済、文化面では、特に船舶海洋工学の細目において、産学官連携により卓越した成果をあげている。
- 卓越した研究業績として、船舶海洋工学の「船用急速充電対応型電池推進システムの開発」、「江戸っ子1号プロジェクト」がある。「江戸っ子1号プロジェクト」では、東京下町の中小企業が中心となり実施した地域・業界の活性化のための深海探査機製作プロジェクトに対して技術協力を行っており、第12回産学官連携功労者表彰内閣総理大臣賞等4件の賞を受賞している。

以上の状況等及び海洋科学部・海洋工学部・海洋科学技術研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、海洋科学部・海洋工学部・海洋科学技術研究科の専任教員数は220名、提出された研究業績数は45件となっている。

学術面では、提出された研究業績43件（延べ86件）について判定した結果、「SS」は2割、「S」は6割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績9件（延べ18件）について判定した結果、「SS」は4割、「S」は4割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1件の研究業績に対して2名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 東日本大震災の復興支援に資する研究を推進するため、学内プロジェクト研究や、岩手大学、北里大学との共同による「SANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業」等を実施している。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学内重点研究で推進した研究や、技術提供支援を行っている産学官連携プロジェクト研究により、卓越した研究業績である船舶海洋工学の「船用急速充電対応型電池推進システムの開発」、「江戸っ子1号プロジェクト」等の成果をあげている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。